

高等学校第2学年 国語科（現代文B）学習指導案

日 時 平成29年11月1日（水）2校時

指導者 教育センター所員 山口 信介

単元名 本文中の語句や表現にこだわって読む（評論）

教材名 内田樹『「身銭」を切るコミュニケーション』（「精選現代文B」東京書籍）

1 単元について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領国語編の現代文Bの目標「近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる」の文頭部分「近代以降の様々な文章を的確に理解し」を受けて設定された単元である。具体的には、現代文Bの内容（1）イに述べられている「文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え」という部分の指導を行うことを目的としている。本教材は、筆者独自の用語や表現が複数存在し、本文中の語句や表現にこだわって読まなければその意図を的確に捉えることはできない。本文中の語句や表現にこだわって読む姿勢を身に付けさせるのに適した教材である。

(2) 指導観

本文中の語句や表現にこだわって読む姿勢を生徒に身に付けさせたい。筆者がなぜその表現を用いたのかという視点を持ちながら本文を読むことで、なんとなく曖昧に読んだり発問に答えたりするのではなく、本文中の語句や表現に即した読解につなげたい。対話の場面においても、本文を離れた空中戦にならないように注意し、本文中の語句や表現に即した対話を心掛けるよう指導する。対話中の発言には根拠が必要なのはもちろんであるが、その根拠は本文中の語句や表現に即していなければならない。

2 単元の目標

- ・文章を読んで、本文の語句や表現に即して筆者の意図を進んで捉えようとしている。
- ・文章を読んで、本文の語句や表現に即して筆者の意図を的確に捉える。（「現代文B」内容（1）イ）
- ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする。（「現代文B」内容（1）オ）

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章を読んで、本文の語句や表現に即して筆者の意図を進んで捉えようとしている。	文章を読んで、本文の語句や表現に即して筆者の意図を的確に捉えている。	語句の意味、用法を的確に理解している。

4 言語活動

筆者の意図について、本文中の語句や表現に即し、自己の思考過程を示しながら話し合う。

5 指導と評価の計画（全3時間）

	学習活動	評価規準（評価方法）
1次	① 単元の目標を知る。 ② 本文に線や印を書き込みながら読み、本文の要旨を考える。 ② 筆者が『「身銭」を切って』と述べる意図を進んで考える。	文章を読んで、本文の語句や表現に即して筆者の意図を進んで捉えようとしている。【関心・意欲・態度】（行動の観察）

2次 本時	① 筆者が「『身銭』を切って」と述べる意図を本文の語句や表現に即して考え、ワークシートに記入する。 ② 解答までたどり着いた自己の思考過程を振り返る。	文章を読んで、本文の語句や表現に即して筆者の意図を的確に捉えている。【読む能力】（記述の分析）
3次	① 新出語彙の意味を調べる。 ② 前次と同種の確認問題を解く。 ③ 単元の目標が達成できたかどうかを振り返る。	新出語彙の意味や用法を的確に理解している。【知識・理解】（記述の点検）

6 本時の目標

本文の表現に即して、「身銭を切る」という語が用いられた意図を的確に捉える。

7 指導の視点

- (1) 対話の必要性及び有効性
 - ・ 単元及び本時の目標を達成するために対話は必要かつ有効であったか。
- (2) 対話の適切さ
 - ・ 単元及び本時の目標を達成する手段として今回用いた対話の内容や形式等は適切であったか。
 - ・ 対話した内容（解答、思考過程、解法）
 - ・ 意図的なグルーピング（グループ編成、人数等）
 - ・ 対話を用いたタイミング
 - ・ 対話前後の変容や深まりをメタ認知させる振り返りワークシート

8 本時の展開（2／3）

	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入	1 本時の目標や流れを理解する。	○展開やまとめにおいて学習活動を通して本文の語句や表現にこだわって読むことの大切さに気付かせるため、導入ではあまり具体的に説明したり強調したりはしない。	
展開	2 以下の発問に対する解答や解答に至るまでの思考過程について話し合う（答えは前時に個人で作成済み）。 ・「まず自分が『身銭』を切って」とあるが、ここで「身銭を切って」という表現が用いられているのはなぜか。その理由を、それぞれ20字から60字で、3つ答えよ。	○発問は設問として板書する。作問者の出題意図を把握することの大切さを知らせる。 ○（レベルの異なる複数解が想定される）葛藤を生むような問いを投げかけることで対話や思考を活性化させる。 ○話し合いの際は、本文の語句や表現に即すことを心掛けさせる。	【読む能力】 話し合いを経た後、左記の発問に対し、本文中の表現にこだわった後出の記述例①もしくは②のような記述をしている。 …A 記述例③もしくは④のよ

	<p>3 個人での作業に戻り、必要であれば解答を修正する。</p> <p>4 数人の生徒が解答を板書する。他の生徒は板書された解答と自分の解答を比較する。</p>	<p>○解答のみならず、その根拠や解答に至るまでの思考過程、用いた方法論についても話し合わせる。</p> <p>○記述例①が出ていなければ、そこに焦点を当てる。</p> <p>○話し合いをしたからといって無理に自分の解答を変える必要はないことを伝える。</p> <p>○解説では、次の2点を中心に説明する。</p> <p>1) 問いを正確に把握した上で解答することの重要性。解答①②と③④のレベルの違いについても説明する。</p> <p>2) 文章読解における初見での対応力の重要性。他の評論の読解にも用いることができる汎用性の高い方法論を身に付けることが大切であると伝える。</p>	<p>うな記述をしている。</p> <p>… B Cの状況の生徒への手立て…グループでの対話を経ても記述例①～④の記述が一つも見られなければ、所属グループ内で出た有効な思考過程を本文に沿って個別で説明する。</p> <p>〈ワークシート〉 (記述の分析)</p> <p>・記述例① 具体例が全て買い物の場面なので、買い物と関係のある「銭」を含む表現がレトリックとして適当だから。</p> <p>・記述例② 「身銭を切る」という表現と自らの努力を惜しまないコミュニケーションには、自ら不利益を引き受けるという共通点があるから。</p> <p>・記述例② (別解) 「身銭を切る」という表現と自らの努力や手間暇を惜しまないコミュニケーションは、自己犠牲を厭わないという点で似ているから。</p> <p>・記述例③ コミュニケーション不調の原因は自他双方にあり、その不調は回復する必要があるから。</p> <p>・記述例④ 他責的なメタ・コミュニケーションは、相手の期待する文脈から外れた言葉を話している可能性を吟味しないので好ましくないから。</p>
まとめ	5 これまでの自己の思考過程を振り返り、ワークシートに記入する。	○変容・成長を自覚(メタ認知)させる。	